



# 「いばらき幸福度指標」の見直しについて

## 見直しの背景

- 「いばらき幸福度指標」は、社会情勢の変化や幸福に関する様々な研究成果などを踏まえ、不断の見直しを行うこととしており、今回、下記の観点で見直しを実施。
  - ① 長引くコロナ禍や世界的な物価高騰などにより社会経済格差が拡大している状況を踏まえ、本県の目指す幸せの実現に向けて、貧困その他の理由により支援を必要とする県民の状況を把握する指標を追加
  - ② 指標全体のバランスを踏まえるとともに、人口減少や少子高齢化が加速する中においても本県を持続的に発展させていくため、新しい人の流れを把握する、人口の社会増減に係る指標を追加
  - ③ その他、実態に合わせて既存指標を見直し

## 見直しの内容

- 全指標数は、38指標から41指標に増加（新規指標3、変更指標1）

区分	指標名	チャレンジ	指標が示すもの	統計名	調査項目・算出方法等	備考
新規	相対的貧困率	安心安全	困窮することなく、経済的な自立を可能とする環境の充実状況	総務省 「住宅・土地統計調査」	総世帯の世帯人員を等価所得順に並べたときに、中央値の所得の半分以下の者の割合を対数正規分布により算出	
新規	不登校児童生徒率	人財育成	支援を必要とする子どもの状況	文部科学省 「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に対する調査」	国公立小・中学校の児童・生徒のうち不登校の児童・生徒の割合	
新規	転入超過率	夢・希望	本県への人口の流入状況	総務省 「住民基本台帳人口移動報告」	転入超過者数÷総人口	
変更	所定外労働時間	人財育成	ワーク・ライフ・バランスの実現状況	厚生労働省 「毎月勤労統計調査」	事業規模5人以上の常用労働者1人当たりの所定外労働時間数	実労働時間(所定内労働時間・所定外労働時間の合計)から変更



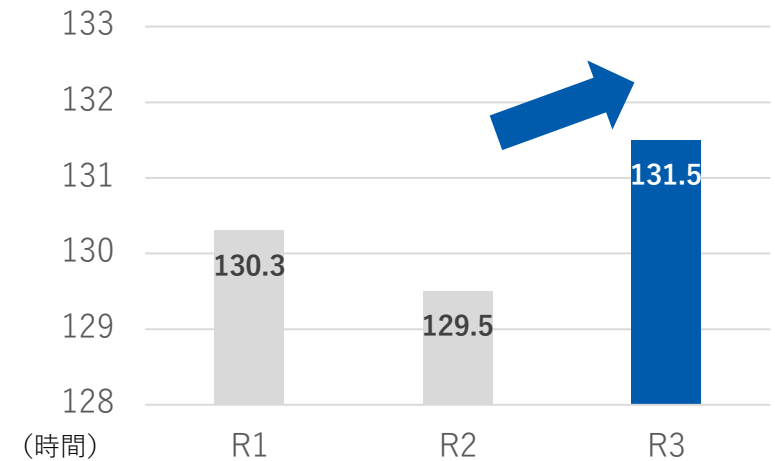
# 「いばらき幸福度指標」の見直しについて（実労働時間の変更）

## 見直しの背景

- 現在、「いばらき幸福度指標」の指標として、実労働時間（所定内労働時間と所定外労働時間の合計）を採用しているが、過去3年分の統計データから、以下のような傾向が見られる。
  - ・ 所定内労働時間の増加  
[考えられる要因]：短時間労働者の勤務時間増加（正規雇用への転換を含む）等
  - ・ 所定外労働時間の減少  
[考えられる要因]：働き方改革の進展等
- 以上から、所定内労働時間が大部分を占める実労働時間の増加は必ずしも否定的なことではなく、「ワーク・ライフ・バランス」を測る指標としては、所定外労働時間のほうがより適切であるとの考えのもと、指標を変更するもの

	R1		R2		R3	
	時間数	全国順位	時間数	全国順位	時間数	全国順位
実労働時間	141.7	18	140.3	25	142.0	34
うち所定内労働時間	130.3	14	129.5	21	131.5	25
うち所定外労働時間	11.4	38	10.8	46	10.5	41

## 所定内労働時間（R1-R3）



## 所定外労働時間（R1-R3）

